

「旧市官有財産等利用に伴う基本協定締結式」



基本協定書を手にする小沢市長と常盤地区振興協議会の遠藤清逸会長

市は、29年度から新たに地区センターなど11施設の指定管理者となる9つの地区振興会と協定を締結しました。1月24日に協定締結式を行い、小沢昌記市長から各振興会の代表に基本協定書を手渡しました。

制度導入済みの16地区と合わせて、25の地区センターで地区振興会が主体となって施設管理する体制に移行することになります。協定の締結に当たり小沢市長は「指定管理を契機として地域ごとに必要なものが見えてくる。市としても十分な支援ができるよう努力する」とあいさつしました。

「地区センターなど11施設が指定管理に」



消防署員と消防団員が連携を確認しながら実施

貴重な文化財を守るための消防訓練を、1月22日と29日に江刺区の中善蔵（菊田一夫記念館）と胆沢区小山の八幡神社で実施しました。この訓練は、1月26日の「文化財防火デー」に合わせて市内の文化財を対象に毎年行っています。

22日は中善蔵が会場となり、江刺消防署員と地元消防団員、市教育委員会、記念館職員など約40人が参加。職員による119番通報や初期消火、消防関係者による指揮本部設置、放水訓練などを実施し、参加者は火災への備えの意識を新たにしました。

「地域の宝を火災から守るために」



息の合った纏振りで火消しの意気を示した

市消防出初式が1月9日、市文化会館（Zホール）を主会場に行われました。

分列行進では、市消防団小原勝喜団長を先頭に団員、婦人消防協力会、奥州金ヶ崎行政事務組合消防本部などが参加し、統監の小沢昌記市長や来賓、関係者が見守る中、統率のとれた動きを見せました。

式典で小原団長は「団員の減少に歯止めをかけるため、さまざまな方法で加入促進活動を進めていく。安心で安全な地域を整備していくため協力をお願いしたい」と訓示を述べました。

「地域を守る消防の使命を決意」



「ニギニギ棒体操」を実演したサポートセンターNPOえさしのプレゼンテーション

市は、市民提案型協働支援事業の平成28年度実績報告会と29年度制度説明会を1月29日、市民活動支援センターで開催しました。15団体による公開プレゼンテーションでは、地域の課題解決や魅力の創出などを目的に、それぞれの団体が知恵を出し取り組んだ成果が報告されました。

同事業審査会の及川純一会長は、講評の中で「事業を詰め込み過ぎず、実情を見極めた事業を計画し、結果を検証しながら次年度以降の活動に結び付けて欲しい」と、さらなる事業の展開に期待を込めました。

「特色ある事業を通じて地域の魅力を創出」



邪気打ち払う裸と炎の祭り

伊手熊野神社蘇民祭



火の粉と激しい煙を浴びて身を清める「火たき登り」

伊手熊野神社蘇民祭が1月21日夜から翌未明にかけて、同神社で行われました。年祝連など約50人が参加し、厄払いと無病息災、五穀豊穡などを祈願しました。

見どころである「火たき登り」では、丸太を3mの高さに組み上げた「歳戸木」に火がつけられると下帯姿の男たちが次々とよじ登り、角灯などを突き上げて「ジャッソー、ジョヤサ！」と氣勢を上げました。祭りの熱気が最高潮に達する「蘇民袋争奪戦」では蘇民袋の口前をつかもうと、男たちが激しい争いを繰り広げました。

仕事の無事を祈願したという江刺区伊手の菊池翔太さん（21）は「ことして8回目。男を磨くため参加している」と祭りに懸ける熱い思いを語ってくれました。



受け継ぐ伝統芸能と郷土愛

前沢郷土芸能祭

前沢郷土芸能祭（同実行委員会主催）が1月22日、前沢ふれあいセンターで開催されました。郷土芸能を継承する団体が活動成果を発表し、伝統芸能の保存伝承への関心を高めようと毎年開催されている同祭。ことしは区内外の7団体が踊りや舞を披露しました。

恵比寿舞でトリを飾った古城林恵比寿舞伝承保存会の千田林司会長（81）は「去年よりも多くの人に来ていただけて良かったし、やりがいもあった。これからも活動を続けていきたい」と意欲を見せていました。



タイを釣り上げたり福餅をまいたり会場を沸かせた恵比寿舞



ジェスチャーゲームの難題に挑戦する参加者



伝える思いとつなぐ優しさ

新春筆談交流会

「集まれ！難聴者・中途失聴者～新春筆談交流会～」(市社会福祉協議会主催)が1月22日、市総合福祉センターで行われました。難聴者・中途失聴者との情報を交換する手段の一つとして筆談を普及し、コミュニケーションを図ろうと、要約筆記サークルみずさわとお花指会のスタッフを合わせ18人が参加しました。

参加者は、筆談での自己紹介やジェスチャーゲームを通して笑いの絶えない時間を過ごし、交流の輪を広げました。